

令和6年春の全国交通安全運動の実施について

1 実施期間

4月6日(土)から同月15日(月)までの10日間

2 主催

内閣府・警察庁等10府省庁、都道府県、市区町村、関係13団体

3 運動重点

- こどもが安全に通行できる道路交通環境の確保と安全な横断方法の実践
- 歩行者優先意識の徹底と「思いやり・ゆずり合い」運転の励行
- 自転車・電動キックボード等利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守

4 運動重点に関連する交通事故の特徴等

(1) 幼児・児童に関連する交通事故

- 状態別では、児童は低学年ほど「歩行中」の割合が高く、高学年ほど「自転車乗用中」の割合が高い
- 幼児・児童とも年初から夏前にかけて事故が増加する傾向
- 時間帯別では、午後3時台が最多
- 通行目的別では、幼児は「遊戯」、児童は「登下校」が最多
- 法令違反等別では、幼児・児童とも「飛出し」による事故が最多
- 見とおしが悪い場所での事故が、全年齢の約3.8倍

(2) 横断歩行者に関連する交通事故

- 横断歩道横断中の事故が約5割で、構成率は増加傾向
- 信号機のない横断歩道における事故のうち、自動車が横断歩道手前で減速したケースは1割未満

(3) 自転車・特定小型原動機付自転車に関連する交通事故

- 児童・生徒の自転車事故は、年初から6月にかけて増加する傾向
- 自転車乗用中死者の約半数が「頭部」損傷
- ヘルメット非着用者の頭部致命傷率は着用者の約2.4倍
- 自転車関連事故は3年連続で増加、全事故に占める構成率も増加傾向
- 自転車対歩行者事故における法令違反では、前方不注意等の「安全運転義務違反」が約7割
- 特定小型原動機付自転車の事故は、発生場所では「車道」が約8割、「歩道」が約1割、相手当事者では「四輪」が約3割、「歩行者」が約2割、「自転車」が約1割
- 特定小型原動機付自転車の交通違反検挙は、「通行区分」が約5割、「信号無視」が約4割

5 警察における重点的取組

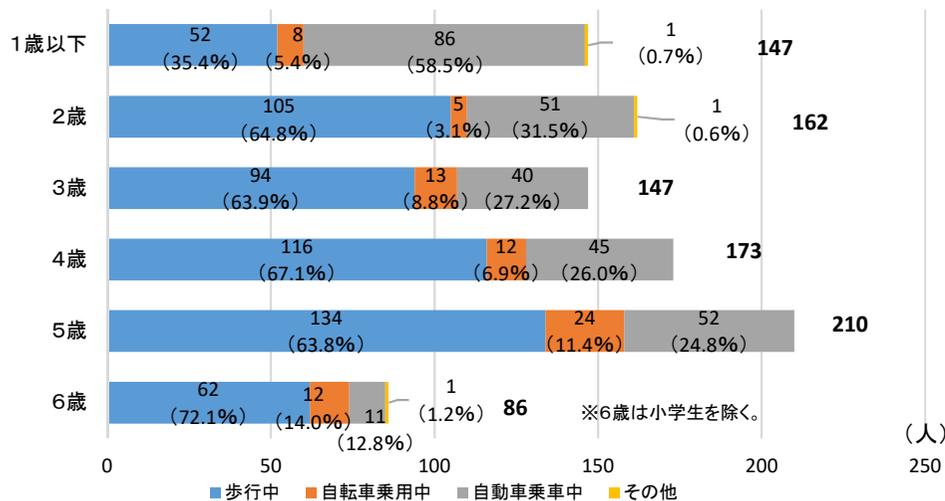
- 幼児・児童等に対する横断方法等の交通安全教育の推進、通学時間帯等における保護・誘導活動の強化、保護者に対する交通安全教育の推進
- 自動車運転者に対する歩行者優先義務等の指導啓発等
- 自転車・特定小型原動機付自転車の全ての利用者に対するヘルメット着用の促進と交通ルール遵守の周知徹底、悪質違反者の取締り

○ 幼児・児童に関連する交通事故の状況

- 児童は低学年ほど「歩行中」の割合が高く、高学年ほど「自転車乗用中」の割合が高い
- 児童・幼児とも年初から夏前にかけて事故が増加する傾向

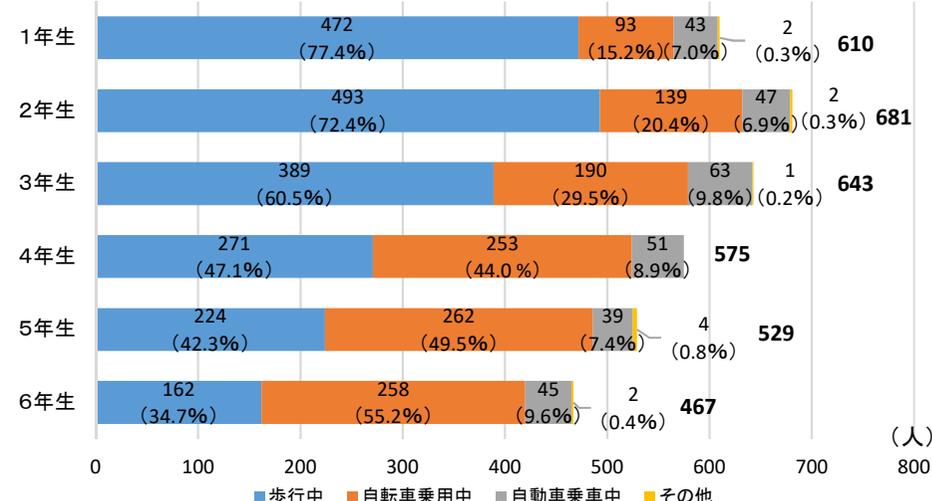
幼児・児童の状態別死者・重傷者数【令和元年～令和5年合計】

〈幼児〉



(注)「幼児」とは、未就園児と就園児をいう。以下同じ。

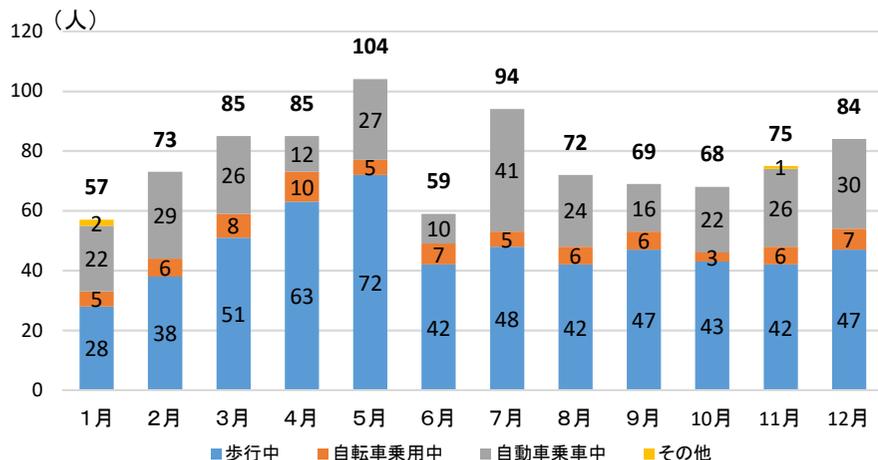
〈児童〉



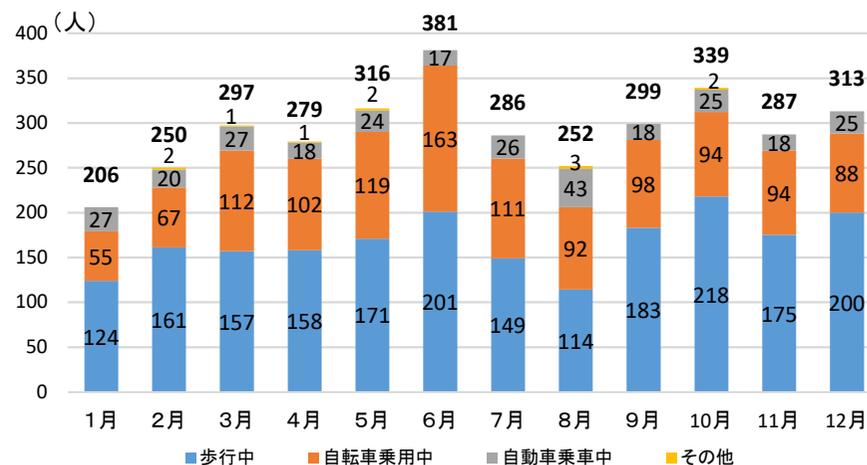
(注)「児童」とは、小学生をいう。以下同じ。

幼児・児童の月別状態別死者・重傷者数の推移【令和元年～令和5年合計】

〈幼児〉



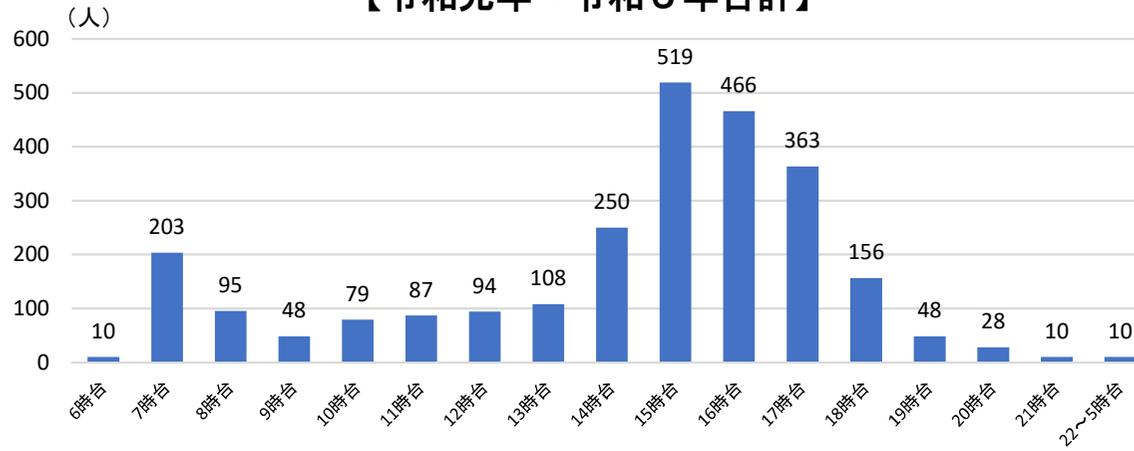
〈児童〉



○ 歩行中の幼児・児童に関連する交通事故の状況

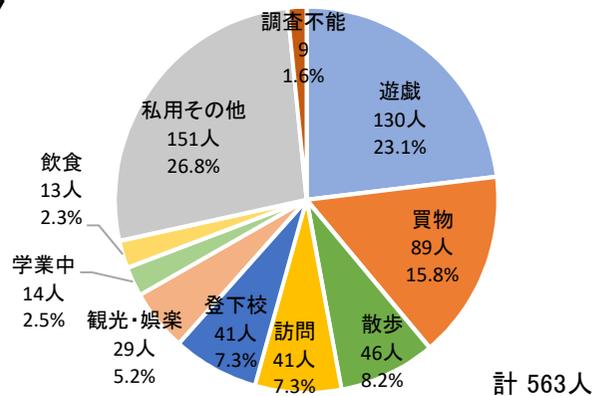
- 時間帯別では、午後3時台が最多
- 通行目的別では、幼児は「遊戯」、児童は「登下校」が最多

時間帯別歩行中幼児・児童の死者・重傷者数
【令和元年～令和5年合計】

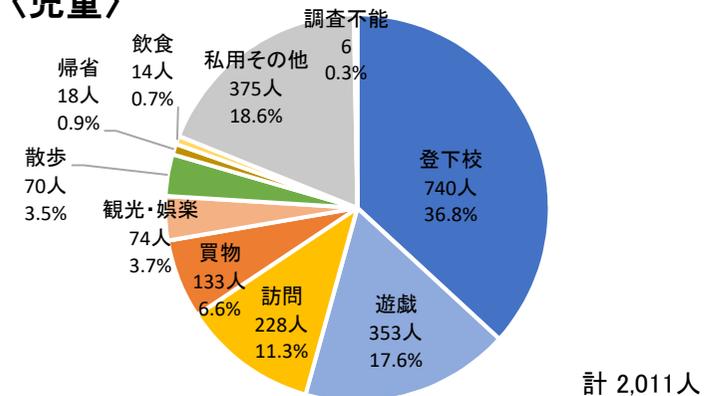


歩行中幼児・児童の通行目的別死者・重傷者数
【令和元年～令和5年合計】

〈幼児〉



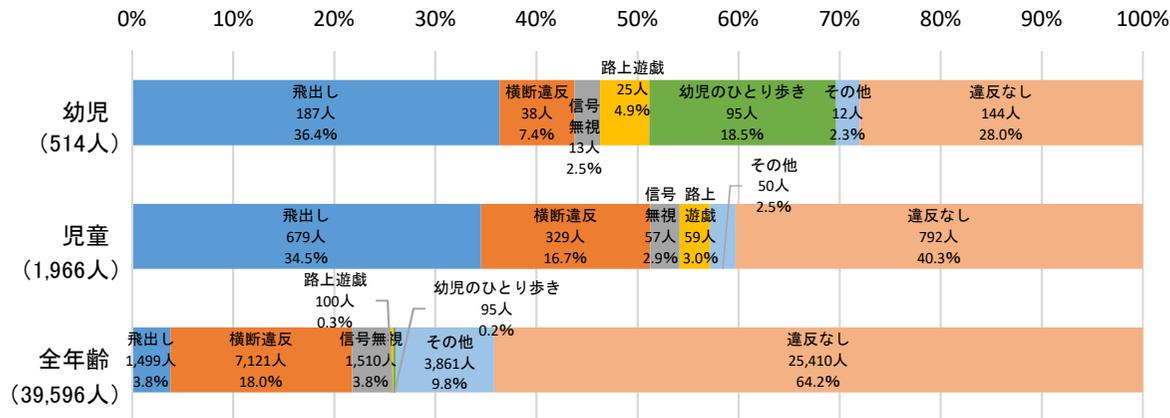
〈児童〉



○ 歩行中の幼児・児童に関する交通事故の状況

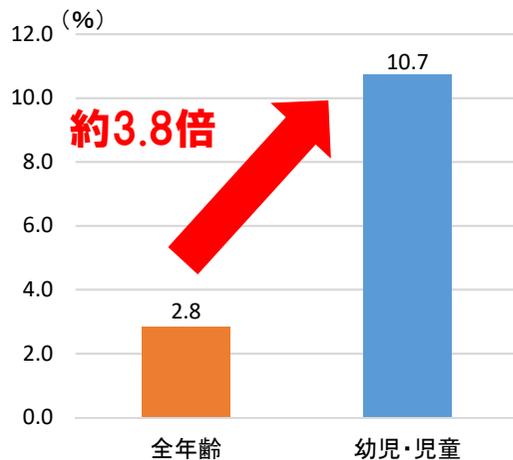
- 法令違反等別では、幼児・児童とも「飛出し」による事故が最多
- 見とおしが悪い場所での事故が、全年齢の約3.8倍

歩行中幼児・児童（第1・第2当事者）の法令違反等別死者・重傷者数
【令和元年～令和5年合計】

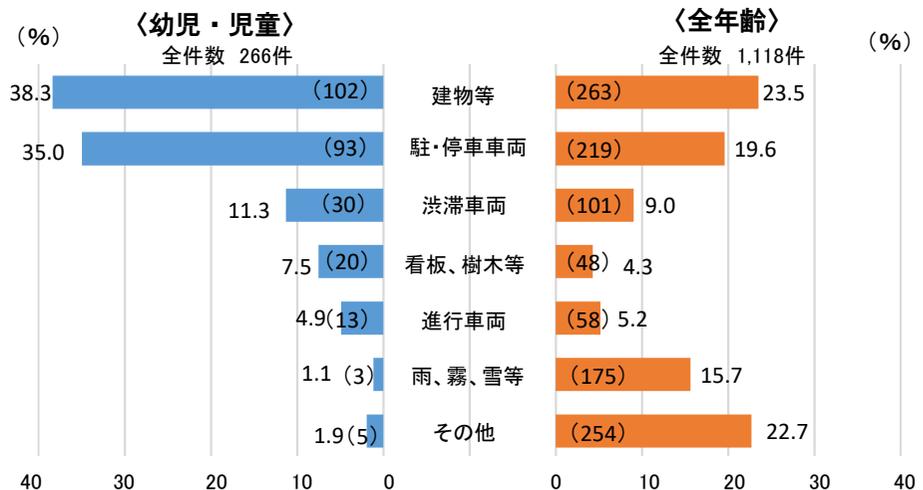


歩行中幼児・児童（第1・第2当事者）の死亡・重傷事故の現場環境
【令和元年～令和5年合計】

見とおしが悪い場所で発生した事故の構成率比較



見とおしに影響を与えた物件別の構成率



(注) 歩行中の幼児・児童が死亡もしくは重傷を負った人対車両の事故において、車両側の環境的要因として「視界障害」がある事故を集計した。

○ 横断歩行者に関連する交通事故の状況

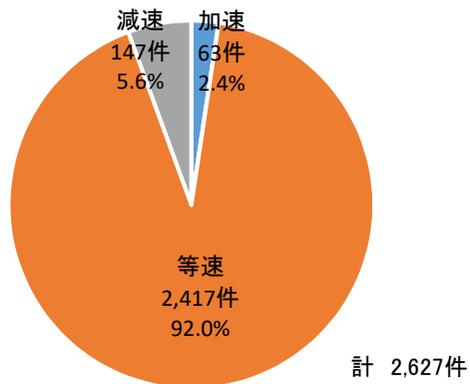
- 横断歩道横断中の事故が約5割で、構成率は増加傾向(平成25年41.6% → 令和5年52.2%)
- 信号機のない横断歩道における事故のうち、自動車が横断歩道手前で減速したケースは1割未満

横断歩行中死者・重傷者数の推移

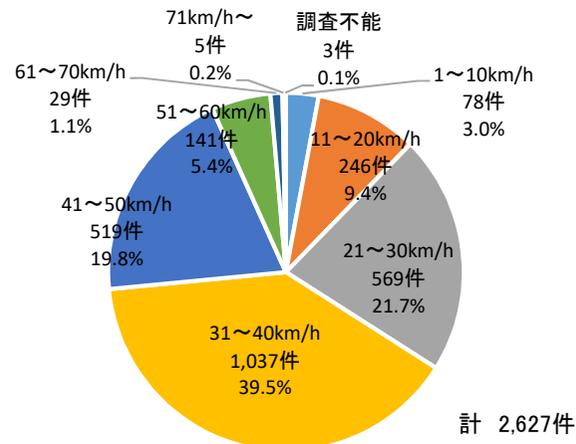


信号機のない横断歩道における自動車(直進)対横断中歩行者死亡・重傷事故の状況【令和元年～令和5年合計】

自動車運転者の行動類型別件数



自動車運転者の危険認知速度別件数



横断歩道等における歩行者等の優先(道路交通法第38条)

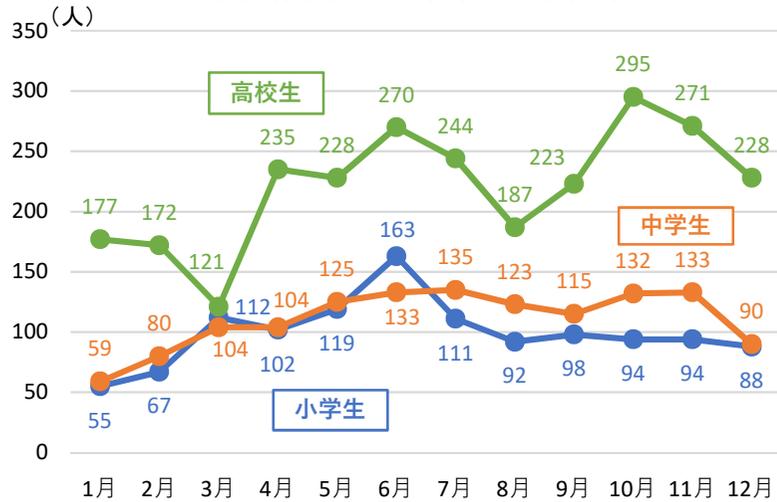
- ◆ 横断歩道を横断しようとする歩行者等がいなかったり、明らかでない場合を除き、その手前で停止できる速度で走行する。
- ◆ 横断歩道を横断している又は横断しようとしている歩行者等がいるときは、横断歩道の手前で一時停止し、かつ、その通行を妨げない。

(注) 危険認知速度とは、運転者が相手方歩行者を認め、危険を認知した時点の速度をいう。なお、運転者が危険を認知せずに事故に至った場合は、事故直前の速度である。

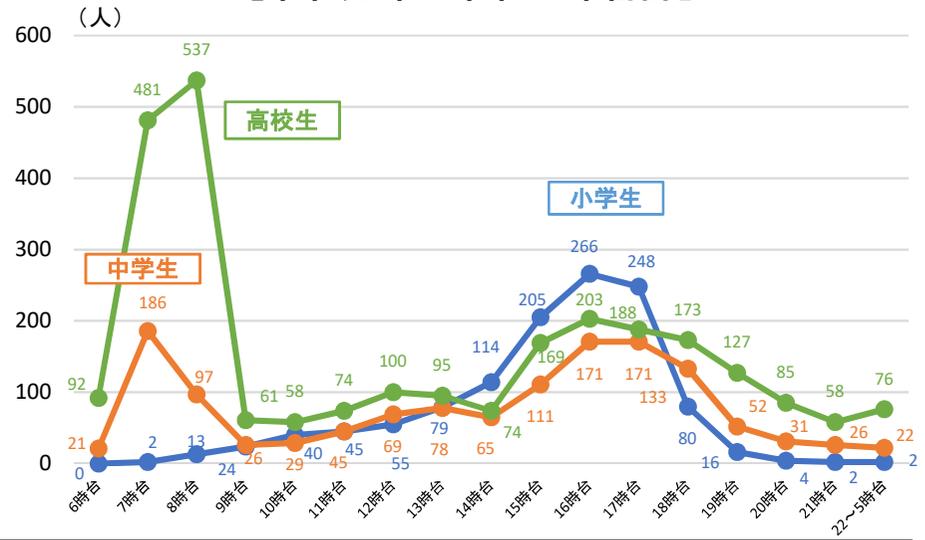
○ 自転車に関連する交通事故の状況

- 児童・生徒の自転車事故は、年初から6月にかけて増加する傾向
- 自転車乗用中死者の約半数が「頭部」損傷 ● ヘルメット非着用者の頭部致命傷率は着用者の約2.4倍

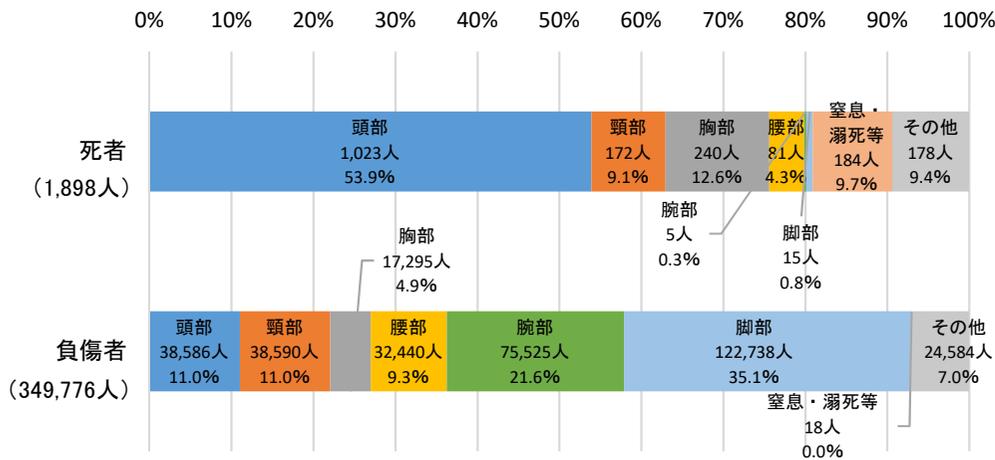
児童・生徒の月別自転車乗用中死者・重傷者数
【令和元年～令和5年合計】



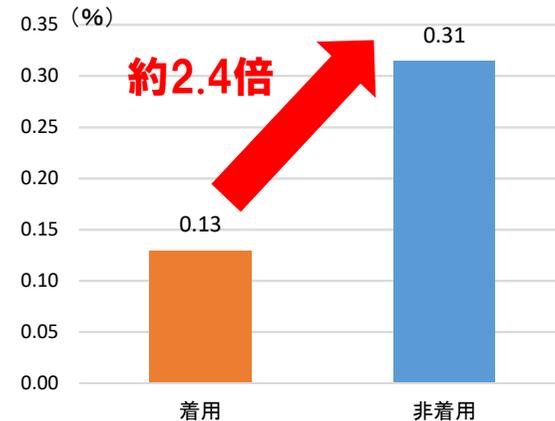
児童・生徒の時間帯別自転車乗用中死者・重傷者数
【令和元年～令和5年合計】



自転車乗用中死者・負傷者の人身損傷主部位比較
【令和元年～令和5年合計】



自転車乗用中死傷者におけるヘルメット着用状況別頭部致命傷率の比較
【令和元年～令和5年合計】

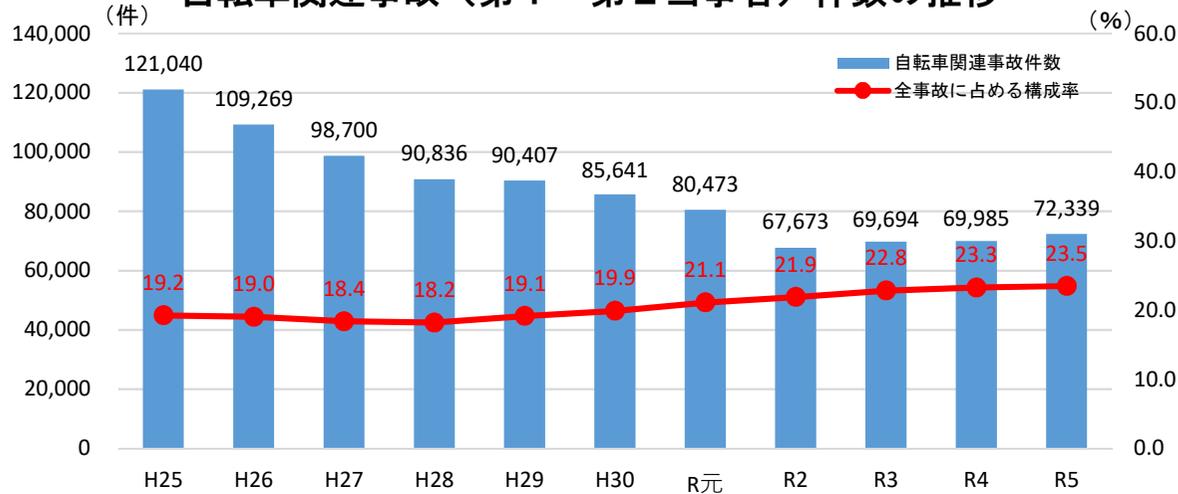


(注) 自転車乗用中死傷者に占める人身損傷主部位が「頭部」であった死者の構成率を比較したものである。

○ 自転車に関する交通事故の状況

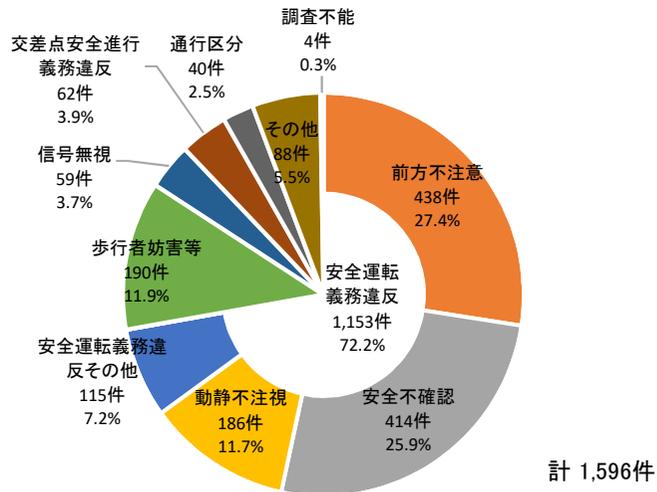
- 自転車関連事故は3年連続で増加、全事故に占める構成率も増加傾向(平成25年19.2%→令和5年23.5%)
- 自転車対歩行者事故における法令違反では、前方不注意等の安全運転義務違反が約7割

自転車関連事故（第1・第2当事者）件数の推移

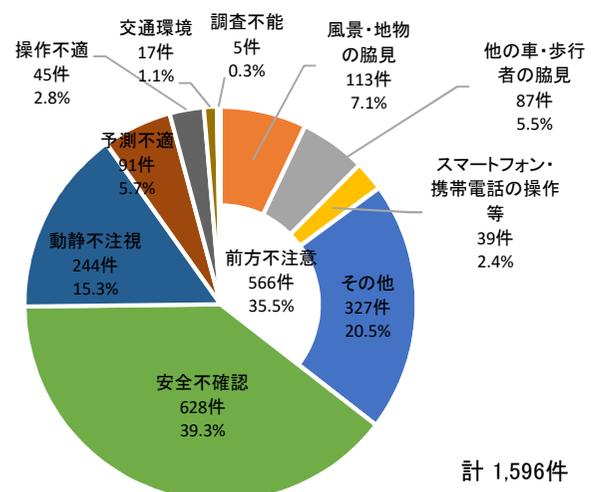


(注)・自転車乗用者が第1又は第2当事者となった事故の件数であり、自転車相互事故は1件として計上した。

自転車対歩行者の歩行者死亡・重傷事故における
自転車運転者の法令違反別件数
【令和元年～令和5年合計】



自転車対歩行者の歩行者死亡・重傷事故における
自転車運転者の人的要因別件数
【令和元年～令和5年合計】



○ 特定小型原動機付自転車関連交通事故の状況

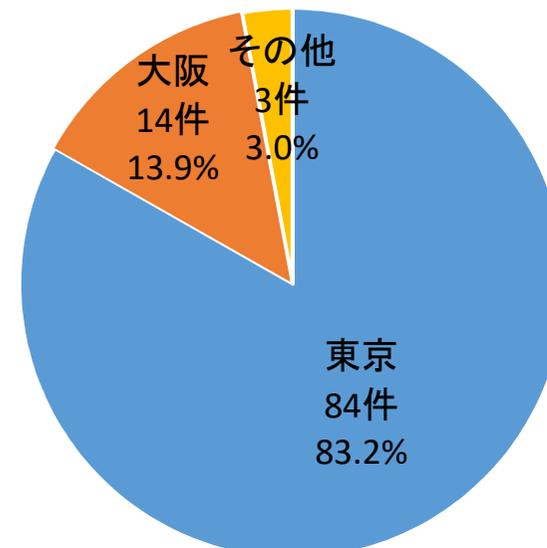
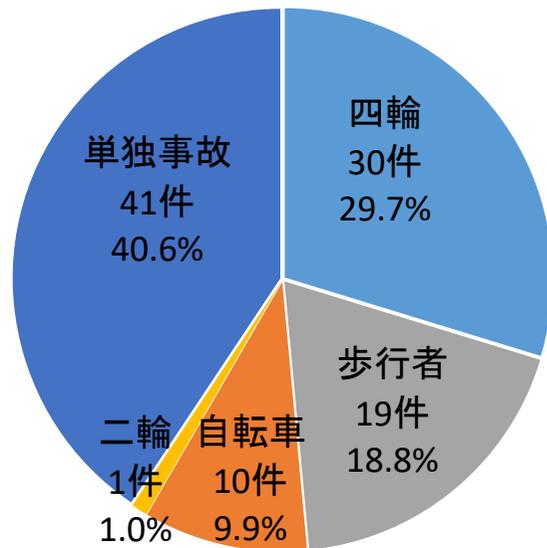
- 特定小型原動機付自転車の事故は、発生場所では「車道」が約8割、「歩道」が約1割
- 相手当事者では「四輪」が約3割、「歩行者」が約2割、「自転車」が約1割 ● 東京都、大阪府で多く発生

<特定小型原動機付自転車の交通事故> (令和5年7月～令和6年1月)

	事故件数	(うち車道)	(うち歩道)	(うち敷地内)	死者数	負傷者数
令和5年(7月～12月)	85	70	14	1	0	86
令和6年1月	16	15	1	0	0	16
合計	101	85	15	1	0	102

※特定小型原動機付自転車が第1当事者又は第2当事者となった人身事故で、警察庁に報告のあった件数を集計

<相手当事者別 (令和5年7月～令和6年1月) > <都道府県別 (令和5年7月～令和6年1月) >

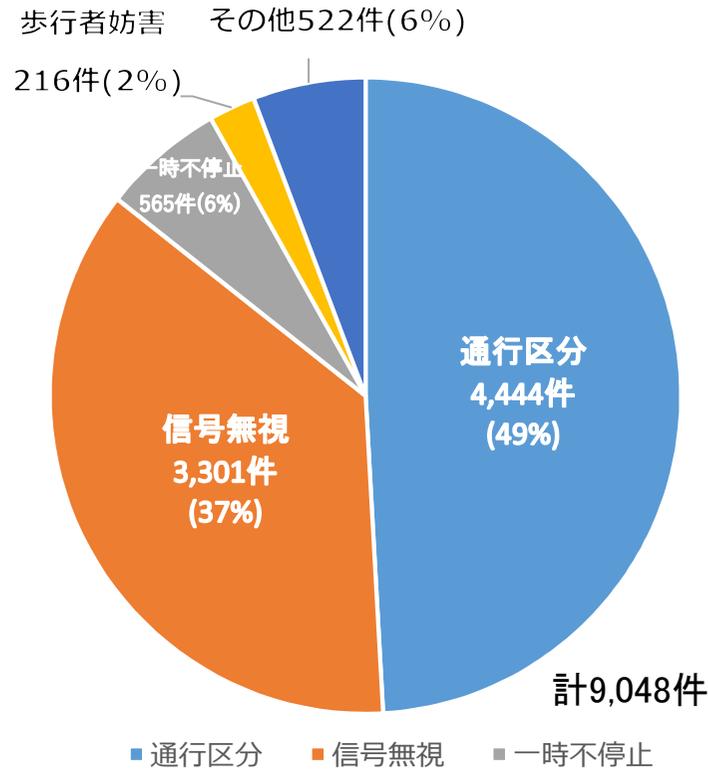


※その他: 愛知2件、山形1件

○ 特定小型原動機付自転車の交通違反の状況

- 特定小型原動機付自転車の交通違反検挙は、「通行区分」が約5割、「信号無視」が約4割
- 令和5年7月以降、交通違反検挙件数は増加傾向

＜検挙件数＞
（令和5年7月～令和6年1月）



＜検挙件数の内訳＞
（月別・違反別）

違反種別	月	令和5年						令和6年	合計
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
信号無視		186	278	345	544	660	672	616	3,301
通行区分違反		150	297	429	617	961	986	1,004	4,444
一時不停止		35	59	80	114	76	99	102	565
歩行者妨害		17	18	23	38	46	30	44	216
その他		17	37	46	71	107	92	152	522
	うち酒気帯び	2	5	5	4	11	10	13	50
合計（件）		405	689	923	1,384	1,850	1,879	1,918	9,048

※都道府県警察から警察庁に報告された数値を集計
※「その他」中、酒気帯び運転は50件